

## 平成 28 年度 一般社団法人えんがる町観光協会 第 4 回理事会 議事録

1. 開催日時 平成 29 年 2 月 7 日 (火) 13 時 30 分
2. 場 所 国産材需要開発センター (木楽館) 研修室  
(北海道紋別郡遠軽町南町 3 丁目)
3. 出席理事 代表理事 遠藤利秀  
業務執行理事 伊藤友彦、矢木 優、杉本一幸、中村康男  
理事 高橋義詔、高橋泰行、益井伸也、高野道生、柴田和浩、磯貝勝幸、今野政男、山崎幸治、  
橋本政司、藤井 勇、秋田 博、
4. 欠席理事 理事 岩上孝義、田中文章
5. 監 事 高橋秀視、高橋 久
6. 議 長 代表理事 遠藤利秀
7. 事務局 事務局長 村上武志、事務局次長 福田比呂子、丸瀬布地域事務担当 松田秀人、  
白滝地域事務担当 山岸 繁
8. 議事録作成者 村上武志

### 9. 議事の経過の概要及び議決の結果

出席理事数を確認し本理事会の成立、また議案が過半数である 9 名以上をもって議決されることを確認して議事に入った。

#### (1) 平成 28 年度事業について (報告)

事務局長より、平成 28 年度内の予定している事業について報告があった。

#### (2) 観光協会所在地 (事務局) 移転について

事務局長は町民センター建設に関する資料 ((仮称) えんがる町民センター建設検討協議会作成資料) について説明し、とり急ぎ町に入所要望書を提出したことを説明した。その上で、観光協会所在地について、木楽館、遠軽 IC 道の駅 (平成 31 年度完成予定)、(仮称) えんがる町民センター、その他の 4 通りの考え方があることを説明し、どれが最適かについて審議を求めた。

議長は、木楽館の今後の状況も併せて検討する必要があることに加え、道の駅とした場合の問題点について述べた。さらに、町民センターについては遠軽商工会議所も入所の要望書を町に提出している点に触れ、業務の効率化を考慮すると町民センターへの移転が望ましいとの考えを示した。また、町民センターとした場合は案内看板の設置も必要であることを付け加えた。

今野政男理事は、道の駅は狭く町民センターで決まりではないかとの考えを示した。

矢木優業務執行理事 (副会長) は、今後のことを考えると町民センターが良いとの考えを示した。

柴田和浩理事は、事務局が業務を遂行しやすい場所を選択することが重要であるとし、町民センターが適しているとの考えを示した。

今野政男理事より、次の議題である“道の駅の指定管理”を考えると道の駅の方が効率が良いのではないかとの見解を述べた。

中村康男業務執行理事 (専務理事) より、道の駅に移転した場合のデメリットとして、町の中心部に観光拠点が無くなることの問題点を指摘した。

議長は、町民センターに移転するにせよ、道の駅には観光拠点となる何らかが必要であるとの考えを示した。

矢木優業務執行理事 (副会長) は、道の駅には職員 (駅長など) が必要であると述べ、その職員を観光協会の理事全員が経営者になったつもりで責任を持ってサポートする必要があるとの考えを示した。その上で、事務局に関しては町民センターが適していると改めて述べ、観光協会が一般社団法人化したことに触れ、今後は様々なことに対し目標を持って行く必要があるとの考えを示した。

今野政男理事より、事務局移転については今すぐに決める必要があるのか、との質問があった。

議長はそれに対し、少なくとも方向性は決めたいとの考えを示した。

杉本一幸業務執行理事 (副会長) は、町民センターの延床面積が 5,500 平米である点に触れ、狭いのではないかと指摘した。

議長は、町民センターへ移転する場合は事務室だけでなく書庫・倉庫といったスペースも確保してもらう必要があり、今後町で検討されることになることと説明した上で、町民センターに移転する方向で進めていく考えを改めて示し、承認を得た。

#### (3) 遠軽 IC 道の駅の指定管理について

事務局長は、事前配布資料とスケジュール資料について説明し、現在道の駅検討協議会は観光協会が指定管理者となる想定で検討を進めていることを説明した。指定管理の範囲として、1 階の道の駅機能の部分、2 階のスキーロッジハウス機能の部分、更にグレンデ全体と駐車場まで含めた全体を一括したものとなることを説明した。指定管理を受ける場合、条件等々を示す必要があることを説明し、これについての審議を求めた。

議長は、指定管理を受けることは簡単なことではないとの考えを示し、町からの条件をそのまま受けるのでは

なく、観光協会としての条件等々を示す必要があるとの考えを示した。さらに、理事全員の力を借りなければ成功しないと述べた。

今野政男理事は、建物だけではなくスキー場（ゲレンデ）も全て一括で受けるのは大変ではないかとの見解を示した。

矢木優業務執行理事（副会長）は、一括管理でなければ、意見や方向性が噛み合わないなど、むしろ困難となるとの考えを示した。

藤井勇理事から、現在の観光協会にそれだけの指定管理を受ける力があるのかどうかの確認があった。

議長は、駅長を含めスタッフを増強し、また指定管理者だけでなく、商工会議所なども組み込み、連携していく必要があることを説明した。

矢木優業務執行理事（副会長）は、駅長を決めたらその人だけが責任を負うのではなく、担当の理事を付けていくべきだとの考えを示した。

今野政男理事は、スキー場部門は現在の支配人に担ってもらう必要があるとの見解を示した。

高橋秀視監事は、道の駅、町民センターとバラバラな体制に問題は無いかと指摘した。

矢木優業務執行理事（副会長）は、これだけ多岐に渡る事業を行っているので、理事も皆真剣に考えて行かなければならないとの考えを示した。

議長は、駅長候補について、素人ではなく経営の経験のある人材を採用する必要があるとの考えを示した。

今野政男理事より、現在スキー場を担っているフォレストパークが今後どうなっていくのかとの質問があった。

矢木優業務執行理事（副会長）は、フォレストパークのロックバレースキー場支配人については今後もスキー場に関わってもらう必要があるとの考えを示した。さらに、指定管理を受ける件については、渡邊博行前会長も観光協会の指定管理には同意していたと述べた。

議長は、今後も情報等を共有し検討していく必要があることで承認を得た。

#### (4) 新規採用事務局職員について

当理事会終了後、直ちに新年度採用予定の新規職員募集広告を出し募集を開始する予定だったが、町より、3月の議会前に予算の執行をすることは本来出来ないことであり、特別に早めたとしても2/23の常任委員会後になるとの説明があったことを報告し、募集開始は2/24以降となる旨の説明をした。

今野政男理事は、募集が遅くなると良い人材はいなくなると指摘した。

議長は、この状況の中で募集をして良い人材を採用していくしかないとの見解を示し、承認を得た。

#### (5) 平成29年度事業予算について（報告）

平成29年度の事業計画及び予算について、町長による査定が1月に終了したことを報告し、多少の修正はあったものの、事業計画の大勢に影響するものではないことを説明した。

#### (6) 白滝地域委員会事務担当者の変更について（報告）

事務局長は、白滝地域委員会の事務担当職員の山岸繁職員が平成28年度末をもって事務担当から外れることを報告した。また、白滝地域の事務所所在地について、平成29年度より矢木組に移転することを報告した。その上で、山岸繁職員の後任について、白滝地域委員長である矢木優業務執行理事（副会長）に報告を求めた。矢木優業務執行理事（副会長）は、現在人選の最中であることを説明し、4月1日までは決めたいとの考えを示した。

#### (7) その他

①事務局長は、町民センターへの入所要望が町で却下された際の観光協会の動きについて、再度当理事会で検討、協議してもらうことを確認をした。

秋田博理事は、同じく入所の要望をしている遠軽商工会議所と連携していく必要があるとの考えを示した。

矢木優業務執行理事（副会長）は、道の駅についても遠軽商工会議所との連携は大事であるとの意見を述べた。

②配布した観光便り最新号（第8号）について、町の広報誌（3月号）に折り込むことを報告した。

以上をもって発議、意見開陳は無しと認められたので、議長は議事を終了した旨を述べ、14:30に閉会した。

以上の決議を明確にする為この議事録を作成し議長及び議事録署名人がこれに記名押印する。

平成29年2月10日

平成28年度 一般社団法人えんがる町観光協会 第4回理事会

議長 会長（代表理事）

印

監事

印

監事

印

原本には記名・捺印あり